

研究テーマ：フレイルの予防を目的とした測定・評価システムの構築とその活用法

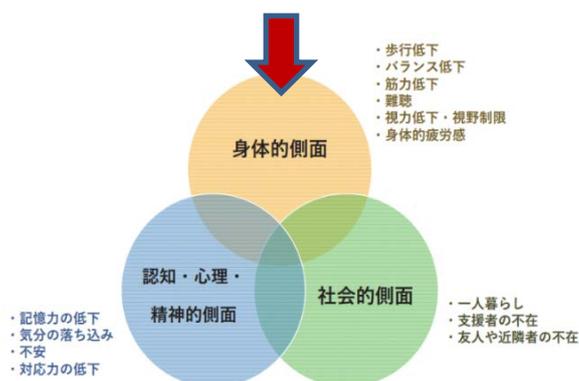


氏名:	南 雅樹/MINAMI Masaki	E-mail:	minami@yonago-k.ac.jp
所属・職名:	合工学科(教養教育部門) 教授	学位:	博士(学術)
所属学会・協会:	日本体力医学会, 日本教育医学会, 日本学校保健学会ほか		
キーワード:	超高齢社会, 骨粗鬆症, 足圧中心動揺, 身体組成		
連携可能企業・業種等:	医療分野, ヘルスケア分野, 行政・社会福祉法人等		

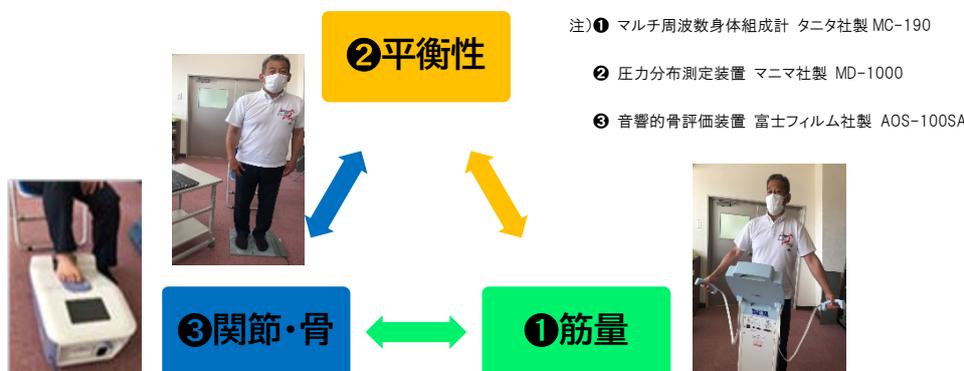
研究内容 骨密度、足圧中心動揺および部位別筋量からみたフレイルの評価法と評価指標の作成

我が国は、2007年に65歳以上の高齢者が総人口の21%を超え、現時点でも世界一の“超高齢社会”である。そのため、年々増加する社会保障や医療福祉の負担を改善するに高齢者の“健康寿命”の延伸は重要かつ喫緊の課題と言われている。また、近年よく耳にする“フレイル”は2014年に日本老年医学会が「加齢に伴う様々な機能変化や予備能力低下によって健康障害の脆弱性が増した状態」と提唱した高齢者関わる概念である。フレイルの予防は、健康寿命の延伸と密接に関連し、我が国が抱える大きな課題を解決する有力なステップと考えられる。

フレイルの原因となる要因は、右図のように多面的であり高齢者個々の背景事由により様々である。「身体的側面」にフォーカスを当てた場合、①筋機能(主に下肢)低下、②神経機能(主に平衡性)低下、③関節機能(主に股・膝足関節)低下、④身体活動量低下(①～③が影響)が特に重要と考えられる。フレイルのいる“基診断基準としては、老人保健事業や介護事業にも利用されて本チェックリスト”や国立長寿医療研究センターが発表しているCHS基準などのアセスメント・ツールは簡便性の点で優れており、よく利用されている。



本研究では、“基本チェックリスト”やCHS基準などのアセスメント・ツールのような簡易的なスクリーニング指標ではなく、上記「身体的側面」の①～③に関する数値データをもとに多面的にフレイルを評価する方法と詳細な評価指標の作成を目標としている。



過去の企業等連携実績・その他アピールポイント等

- ・鳥取県スポーツ医科学委員(2018～)
- ・鳥取県環境学術研究振興事業等助成(2007～2009, 2012～2014)
- ・測定事業: 骨密度測定・足圧中心動揺(2003～/小学生～高齢者)